

日本作業科学研究会ニュースー作ら， さくらー第8号



発行年月日 2010年6月25日
発行者 日本作業科学研究会
ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>
編集責任者 吉川ひろみ

第14回作業科学(OS)セミナーお知らせ

2010年12月11日(土)、12日(日)の二日間、琉球大学にて開催します。テーマは、『結・ゆいー～作業の花を咲かせましょう』です。「結」には「相互扶助」「助け合い」「つながり」「共同して何かを行う」などの意味があり、沖縄では「ゆいまーる(結が回る)」という言葉が有名です。したい、かなえない作業を咲く花にたとえて、力をつなぎあわせながら作業ができることを支援していけるように、という思いをこめました。そして「結ぶ」という単語が表すように、学問と実践を結ぶ・協力を結ぶ・過去と未来を結ぶ…たくさんの方々のことを参加者の方々と共有して結んでいくことを願っています。

今回は、5講演と演題発表でプログラムを構成し、OSという学問を初めて知る方にとって学びやすく、OSに造詣の深い方にも実りのある内容になるようにと、準備を進めています。第14回セミナーのHPを開設しましたので、本研究会サイトよりお入りください。今後随時アップしてまいりますので、詳細についての確認を宜しくお願いいたします。また、OSの勉強にきたと思っていたのに、終わって



みたら沖縄の文化まで触れていた！と感じてもらえるような会場作りに担当チームで奮闘しておりますので、こちらもどうぞ楽しみにしてください。

沖縄で、有志の勉強会(作業を問う会)を発足してから1年半がたちます。試行錯誤しながら活動を続け、勉強会やセミナーに参加するたびに新たな視点と元気をもらってきました。勉強会発足から丸2年にあたる今年のセミナーは、私たち実行委員にとっては花が咲くための種を撒く作業でもあります。参加される皆さまと作業について多くの学びを得て、作業の魅力や可能性を語り合う濃い二日間になることを心から期待しています。

実行委員一同、お会いできることを楽しみにしておりますので、是非ふるってご参加ください！

(村上典子
作業を問う会/豊見城中央病院)

結～作業の花を咲かせましょう～

日時：2010年12月11日(土)12日(日)
会場：琉球大学 法学部 大講堂
沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
千原キャンパス
<http://www.jssso.jp>

講習会の報告

私たちは作業を問う会（通称 さとう会）を発足し、OS を学んでいます。作業に焦点を当てる視点は私の作業療法に力を与えてくれました。OS が私に作業療法を説明することばをくれたからです。そしてそのことばは、私の作業療法士としての自信につながりました。私は OS を学ぶ作業、仲間との交流を通して幸せを感じています。

この度、平成 22 年 12 月 11 日（土）、12 日（日）に第 14 回 OS セミナーを沖縄で開催する運びとなりました。さとう会の仲間は沖縄の作業療法士に OS を知ってもらいたいという思いから参加者 200 名を目標に準備を進めています。

目標達成に向け、OS インフォメーション講習会、テーマ「作業療法と作業科学－歴史的背景を中心に－」を平成 22 年 5 月 12 日（水）に沖縄県総合福祉センターで開催しました。さとう会の仲間である酒井ひとみさんに講師を依頼しました。

県内の作業療法士を中心に 100 名が参加しました。

受講後アンケート結果

アンケート回収率は 80% でした。結果は、①OS を知っていた 13%（10 人）、②作業療法について説明するとき不安がある 86%（65 人）、③OS に関心がある 97%（78 人）、④所属領域は身障・老人 45 人、精神 20 人、教育 5 人、その他・無回答 10 人、⑤提供サービスの種類は回復期 27 人、維持・生活期 21

人、その他 7 人、急性期 5 人、無回答 25 人でした。

第 14 回 OS セミナーのテーマは「作業の花を咲かせましょう」です。ぜひ、OS を広めるという種をみんなで育てていきたいと思いません。そして、作業の花を満開にしたいと思います。参加者一人ひとりに OS の種を持ち帰っていただき、新たなフィールドに種をまいてほしいと願っています。

（田村浩介，琉球リハビリテーション学院）

参加者の感想

私が就職して現場に立ったとき、作業療法士として何ができるのか分からなくなり始めました。そのときに多分野の作業療法士が集まる OS に出会いました。その中で、事例検討を出させていただいたのですが「利用者様一人ひとりが持つ作業の意味」について考える OS の面白さにひかれていきました。今回の講習会においても「作業は個々人のその人なりを反映したこだわりだから、同じ作業はひとつもない唯一なもの」と表現されていました。また、作業療法の歴史、作業療法士としての役割についてもお話があり、作業はとて広く深い意味を持っていると感じました。まだまだ勉強不足で作業療法士としても未熟な部分がありますが OS で出会った方々と学びあい 12 月に沖縄県で行われるセミナーでもたくさん学ばせていただきたいと思います。

（米山恵利加
オリブ山病院 精神科デイケア）

事務局からお願い

本研究会は平成 21 年 10 月 1 日から平成 22 年 9 月 30 日までが、平成 21 年度になります。会員の方は、会費の納入をよろしくお願ひします。新年度への移行に伴いホームページの会員専用サイトパスワードは、12 月 1 日から変更いたします。平成 21 年度パスワードは会費を納入された会員の皆様に順次発行されますので、会費の納入はお早めにお済ませください。

<http://www.jssso.jp/>

OTのアイデンティティを支えるOS

今日本の多くの作業療法士（OT）が抱える悩みは、「自分の職業が何であるかを明確に理解しきれないし、説明することもできない」ということではないでしょうか。この問題に対し私は、作業科学（OS）は、OTという専門職のアイデンティティの基盤となるものであると考えます。

作業療法士にとってのOSは、弁護士にとっての法学、薬剤師にとっての薬学、栄養士にとっての栄養学とでもいえるかもしれませんが。それに対しての深い知識が、他の専門職やサービスの受け手との明らかな差を作るものであり、専門家としての誇り、責任、自信の源になるといえるでしょう。

法学・薬学・栄養学といった研究では、日々新しい知識が生み出されていますし、その知識体系も刻々と変化していることでしょう。新しい視点が提示されれば、そこで注目され、話題となる流行のトピックスも表れてくるはずですが。しかし、これらの学問が、専門職の基盤的組織であるにもかかわらず、この領域の知識の生産にあたっては、弁護士・薬剤師・栄養士以外の専門性を背景とする多様な研究者の関与があります。そして、ここで生み出された研究知識が、即刻・直接的に、専門職の日々の業務に役立つこともそれほどないかもしれません。しかし、この基盤的学問の最新知識や動向は、それぞれの専門家に自らの業務内容や考え方の見直しを迫るにちがいません。

OSは作業や作業的存在としての人間の知識を生み出していく学問です。この知識の生産にあたっては、文化人類学・社会学・心理学・医学・脳生理学などOT以外の専門背景をもつ研究者の関与があります。そしてその知識は、OT以外にも広く汎用し得るものです。OSは、OTにHOW TOの知識を提供するものではありません。しかし、OSの知識に常に触れることを通して、個々のOTは、自らの考え方や、提供するサービスのあり方を振り

返るとともに、専門職としての自信と誇りを高めることができるのではないのでしょうか。

OSは、まだ新しい学問であり、「これを学べば、OSについての最低限の知識を得た」「あるいは、これがOSのアドバンスの知識だ」というような、学習の仕方ができないのが現状です。そのため、OSを学び進めていくための具体的なアドバイスを差し上げられないことを残念に思います。

ただ、最も大事なことは、「人を作業的存在としてみる」というOSの前提を理解することでしょう。そのためにはまず、OSの歴史を知り、OSの創始者がなぜ「人を作業的存在としてみることに意義を見出したか」について考えてみるといいかもしれません。次いで、作業は人間にとってどのような役割をもつか、人の行う作業に影響を及ぼすものは何かと考えを進めて下さい。それにより、作業をとりまくものの複雑さやその関係性が徐々に見えるようになってきます。さらに、学びを進めたい人は、*Journal of Occupational Science (JOS)*などで取り上げられた論文を、一つひとつ丁寧に読み、わからない言葉や文章を調べていくということも、一つの手です。*

(近藤知子，帝京科学大学)

参考文献

近藤知子，大松慶子，西方浩一：作業療法学生は作業科学授業をどのように受け止めたかー職業的アイデンティティに及ぼす影響。作業療法 29: 195-206, 2010.

吉川ひろみ：作業って何だろうー作業科学入門。医歯薬出版，2008.

*会員の方は研究会ホームページより、JOS掲載の英論文抄録の日本語訳の閲覧ができます。16巻1~3号の抄訳が完了しました。
<http://www.jssso.jp/>

作業科学専門学術誌 Journal of Occupational Science (JOS)

JOS ホームページ <http://www.jos.edu.au/> から定期購読申込みができます。

WFOT チリ大会参加報告

ISOS 会議報告

5 月 5 日 (2 日目) 17 時 15 分から 19 時まで WFOT チリ大会での特別会議のひとつとして、ISOS (国際作業科学研究会, International Society for Occupational Science) 会議が行われ、アメリカ、カナダ、スウェーデン、ベルギー、オーストラリア、南アフリカ、台湾、日本など 12 カ国から研究会の理事および代表者 40 名程度が参加し、日本からは 4 名が参加しました。

会議は、ISOS 会長のアリソン・ウィックス氏の挨拶で始まり、今回の会議のテーマ「**ネットワークの構築とコラボレーション**」の紹介、チリの作業科学 (OS) 研究会の会長から挨拶と理事の紹介がありました。その後、各国代表者たちの交流が持てるように、二人ずつのペアで各 5 分間自己紹介を 2 クール行いました。研究内容の紹介や関心事などを話しました。私は、南アフリカとアメリカの研究者と交流を持つことができ、一人はエスノグラフィの手法を用いての子どもたちの遊びの世代的変化について、またもう一人はパーキンソン病者に関する Time Activity の手法を用いた研究を行っていました。

次に全参加者を 4 グループに分け、OS に関するネットワークの構築とコラボレーションについて 25 分間ディスカッションし、その後各グループの代表が発表しました。

最後に、チリ会長、ISOS 会長の総括ならびに各国代表の紹介、翌日の ISOS ワークショップの案内を行い閉会となりました。今回の会議の内容は、ISOS の HP で閲覧可能となる予定です。

会議に参加した感想は、とにかく熱く語る方が多く、あっという間に時間が過ぎてしまったという印象です。英語力もなく聞き取る



のが精いっぱいでした。その場にいただけといった感じでしたが、世界の作業科学者が一つになり、様々な作業の知見を共有できることは、人の幸せにつながる素晴らしいことではないかと感じ、このような機会をもらったことに感謝しています。

(西方浩一, 文京学院大学)

最初の交流の時間に、チリの病院に勤務している作業療法士 (OT) と話しました。お互いに英語が苦手な者同士、身ぶり手ぶりを加えて自分たちの背景や OS に関する興味を話しました。現在チリには、OS 研究を行う基盤は整っておらず、OS の研究結果や知識を作業療法の実践や教育に役立てたいと考えている OT が多いとのことでした。

グループディスカッションでは、南カリフォルニア大学 (USC) のフローレンス・クラーク氏やルース・ゼムケ氏、カナダやオランダからの参加者と同じグループでした。OS 研究のストラテジーを共有するために、最新の情報にアクセスできるシステム作りが必要であるとの意見が出されました。例えば、ISOS のホームページに最新の研究結果やニュースを掲載し、誰でもアクセスできるようにすることなどです。しかし、世界で情報を共有するためには言葉の壁が生じます。日本ではホームページに加えてニュースや OS の雑誌が発行されていることを伝えました。経験の少ない OT に、地域実践の援助やアドバイスをする際にも OS の研究結果が役立つと主張する人もいました。言葉の問題と知識不足のために、話の内容がよく理解できず、自分の意見を伝えることもできませんでした。世界の作業科学者の熱い思いに触れられたことは、とても貴重な経験でした。また、学会全体が作業に焦点をあてており、世界の OT たちが OS の知識を必要としていることを実感しました。(古山千佳子, 県立広島大学)



OSの教育・研究に関するネットワーク構築とコラボレーションのための戦略に関するグループディスカッションの結果，次のような意見が出ました。

1. google group を使ってウェブ上で，OSに関するテーマを決め，ISOS 会員がそのテーマについて論議できる機会を作る。
2. ウェブを活用し，それぞれの会員が行っている研究や関心領域を共有し，その研究に関心のある会員が協働してプロジェクトを行えるようにする。
3. WFOT 学会や各地域の学会で OS 会議を開催し，各国の会員が直接顔を合わせられる機会を作る。
4. ISOS のホームページやニュースレターを多様な言語で見られるように充実させる。提案された意見の中で，2，3，4 についてはすでに取り組みが始まっています。今回の会議の開催が，各国の会員が直接顔を合わせる機会となりました。また ISOS のホームページでは OS に関する研究や教育を紹介する準備が始められていますし，ホームページの一部はスペイン語や中国語で見られるようになっています。今後は ISOS と各国の OS 研究会が協力して，このような取り組みを促進していくことになると思います。次期学会は横浜で開催されるので，私も日本の作業科学者

の一人として，OS 会議やワークショップの準備やホームページの充実に尽力していきたいと思っています。

AOSC, ECOTROS, USC を始めとする世界の作業科学者と出見え，ネットワークを築けたことは，これから私自身が OS 研究，教育を進めていくうえで，貴重な経験になりました。今回の会議を企画して下さった ISOS やチリ OS 研究会の理事，参加の機会を与えて下さった当研究会に感謝します。

(高木雅之， 県立広島大学)



International Society for
Occupational Science

ISOS ワークショップ報告

5月6日に，ISOS はワークショップを開きました。タイトルは「ISOS：作業科学の世界の共有と，さらなる作業療法への貢献」でした。1999年以來 ISOS は，国際的リストサーブの提供，ワークショップやセミナー，シンクタンクの開催，ISOS の発展に向けた戦略を企画するためのエグゼクティブチームの発足 (<http://www.isocsci.org/index.html>)などを通じてネットワークを築いています。

今回のワークショップでは，近年の OS 研究や社会政策などを例にしながら今後の発展の方向性について探ることが目的で，同時に

これらの研究や政策が作業療法の実践や教育にどう関連するかについての議論もなされました。ISOS チームとしては、グローバルなネットワーク作りの重要性の認識を高めること、作業を基盤とした様々な分野での実践をもとに、活発に議論できる場所を提供することを狙って開催しました。

8グループに分かれ、2つの質問について話し合われました。一つは今後の研究の方向性に関して、もう一つは地域の発展、政策、そして実践にどのように寄与していくかの方向性に関してでした。全体で一致した意見としては、作業の研究は質的・量的双方からのアプローチが必要だということでした。また、OS が社会でどのように受け止められているかに関しては世界の各地域によって異なっていました。ワークショップでは各グループが、ひとつのキーポイントについて他グループと意見を共有するよう求められました。

キーポイントの要旨は次の通りです。

1. その地域にとってどのような問題が重要であるかを探る重要性。これらの問題は、

アート（芸術）、教育材料、実践マニュアルなどの様々な形で、その地域の文脈にあったものが提供される必要がある。

2. 多様な文化的側面を捉えていく視点の重要性。OS の中で触れられたり、現代社会の中で社会的関連性がなければならない。
3. 作業を普遍的に定義づけようとするのではなく、社会的・文化的・政治的文脈に関連した作業というものを、体系的に脈絡化していく研究の必要性。
4. OS の教育、特に研究や実践方法の質・水準を高めていく必要性。
5. さらなる質的・量的研究の必要性。

ISOS ワークショップ,そしてそれに先立って行われたチリ OS 研究会との合同会議での最終結果として, ISOS 会員による議論の場を ISOS オンラインフォーラムとして開催すること, また各地域で直接顔をあわせられる機会を増やすことを計画しています。詳細は ISOS ウェブサイトをご覧ください。

(浅羽エリック, 浅羽医学研究所附属岡南病院・スウェーデン王立カロリンスカ研究所)



平成 21 年度 第 3 回理事会報告

【日時】 2010 年 6 月 11 日 20 時

【場所】 浜の漁師居酒屋 (仙台市)

【出席】 宮前, 吉川, 村井, 近藤, 西野, 港, ボンジェ, 坂上, 西方, 村上

【欠席】 浅羽, 西上

【議題】

1. 機関誌 (西野, 港, 村井) 第 4 巻 1 号発行準備中。研究論文未着
2. ホームページ (浅羽より資料提供) ヒット件数は 19,898。今年からニュースがオープンアクセス。会員専用サイトには研究会誌と, JOS の抄録翻訳掲載。IT 管理者は浅羽明恵氏で継続。今後 OS セミナー広報に IT 管理者と連携するよう徹底周知する。

3. 広報 (吉川, 近藤) JOS 抄訳 16 巻 1 号, 3 号終了。ニュース 8 号編集中。メーリングリスト作成検討の委員会設置のため次回総会で規約改正を提案。
4. JOS (ボンジェ) JOS の HP に「日本語」が登場
5. 第 13 回作業科学セミナー報告 (村井) 参加者 236 名。
6. 第 14 回作業科学セミナー (村上, 村井)「テーマ: 結—作業の花を咲かせましょう—」プログラム作成中。演題発表時間を 1 題 30 分とし, どこが OS 研究かという解説を含みたい。7 月 1 日から演題募集開始, 8 月末抄録提出予定。セミナーでの赤字は研究会から補填。

7. 理事の選挙（坂上）半数程度理事交替を予定する。公示9月17日，立候補締め切り10月8日。
8. その他：ISOSとのセミナー共同開催は先送り。担当理事を委員長とし，委員をおけるよう規約改正の準備をする。WFOTの報告はニュースに掲載。次回セミナーは三原（広島）で，次々回セミナーは札幌で夏に

開催予定。

【報告】

1. 会員登録数 341 名，会費納入者 203 名（6月9日現在）
2. 予算執行状況：現在残金 477,644 円
3. 次回理事会 12月10日 18:30か19:00より。新理事による理事会は総会終了後。



WFOT の OS 声明書の紹介

世界作業療法士連盟（WFOT）の雑誌 Bulletin 最新号に作業科学（OS）声明書が掲載されていました。WFOT が OS の意義を認め，サポートするというのは心強いです。

概略は次の通りです。

「序文：2001年にWFOTは、OSの国際顧問団を設立した。OSは1980年代後半に、人間作業に関する知識を一般化するために、OTによって創設された。OSは、人々が日常生活で行うこと、その作業が健康や安寧にどのように影響するか、どのように影響されるか、について研究する。OSでは、実証的研究法と解釈的研究法を使う。OS研究には、作業と発達の関係、一生涯を通しての作業変化、日常の作業がどのように構成されるか、個人的・社会文化的な作業の意味、個人的及び社会的な作業の機能、作業と人々の背景との関係、どのように人々は自分が行うことを経験するか、といった研究がある。人々が自分の作業をどのように、いつ、どこで、なぜ決めるか、といったこともOS研究で扱われる。最近、経済や環境問題、政府の政治方針が人の作業の機会と選択に及ぼす影響が注目され、作業中断、作業的公正、作業剥奪、作業隔離といった概念が登場してきた。

WFOTの立場：WFOTは、人間作業の知識が作業療法カリキュラムの必須基盤であり、作業療法研究の理論枠組みを提供することを認める。WFOTは、作業の理解が効果的な作業療法実践を支えたと考える。治療手段として、作業療法の最終目標として、双方の作業の豊かな理解が作業療法実践を支える。OSから得られた概念は、クライアントの主観的経験や独自の見解をOTが理解できるようにするとWFOTは考えている。WFOTは、OSの継続的成長と発展、その目的をサポートし、OSが世界でイニシアチブをとることを奨励する。」

（WFOT Bulletin vol.61, 17, May 2010 あるいは、<http://www.wfot.org/default.asp> から原文を入手できます。Document Centre の Position Statements の中から探してください。WFOT 会員になると、Bulletin が閲覧できます。）

編集者からのお知らせ

お知らせなど、このニュースに掲載したい記事がある会員は、吉川ひろみ yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp まで、お送りください。ニュース発行は年2回の予定です。